

関東龍門会報

〔〈旧制〉加治木中・加治木高女・加治木高校同窓会〕

発行人

会長 塩村 朱美

発行元 関東龍門会 事務局

HP www.ryumonkai.com/

幹事長 海江田 健司 (〒179-0083)

東京都練馬区平和高4-12-17-202

〈メールアドレス〉

kenji_kaieda@sonylife.co.jp

《令和4年、総会(懇親会)中止のご案内》

高校生活を終え 羽ばたく想い

◎窪田 皓さん (令和04年卒・高74期)

まるでコロナ禍であらゆる活動を制限された私たちの高校生活を天が哀しむかのような雨の中、卒業式が執り行われました。それでも、卒業生の表情は雨を吹き飛ばすような晴れやかなものでした。それぞれが自分の高校生活を振り返り、明日に希望を持っていたのだと思います。そして、私はこれまでにない緊張を感じた合格発表を経て、この春、横浜国立大学進学が決まりました。

私は高校入学後、最初に大学調べをしたときに、横浜国立大学を受けようと思いましたが、理由は「関東の大学に行きたい」という、判然としないものでした。それでも当時先生は、それも確かな理由だ、と受け入れてくれました。

高校では、サッカー部に所属しながら、二年の時には生徒会副会長を務めて忙しい日々を過ごしていました。一昨年度はコロナウイルスの影響で中止になった活動も、昨年度は制限をかけた中での開催となり、部活動でも生徒会でも多くの経験ができました。しかし、この二つの活動に重きを置きすぎて、日々の勉強が疎かになっていました。成績が伸びないことを深刻に捉えずに、部活と生徒会を引退した後は受験勉強に集中できるだろう、という甘い考えに逃げていました。部活と生徒会が代替わりして、いざ勉強に臨むだけだという状況になると、あの忙しさのない中で自分を追い込むことができます、怠惰な日々を過ごしていました。

ある日の帰り道、いつも目に見えて他



の人よりも勉強を頑張っている友人に、
「もっと勉強しなきゃいけないよね。」

受験って怖いね。

とおどけて言ったとき、

「どこまでやればいいかわからないのは、本当に怖いよ。何も見えない海の上で船を漕いでるみたい。」

と友人は不安げな表情で答えました。ふと、何かが腑に落ちて、冷静に考えることができました。目的地は見えていらずなのに、前進できているのかわからない不安感。それでも隣では、友人たちも一緒になって自分の船を漕いでいる。先生方が背中を押してくれる。両親が見守ってくれる。

一人で戦っているわけじゃない、支えてくれる存在はすぐそばにいたんだ、ということに気づけました。また、これほど心強いことはない、と思いました。

その後は、安心して受験に向けてオーラを漕ぐことができました。漠然としたものに向かって進むのは、怖くて勇気がいることです。それでも前を向いて自分の確かな一歩を踏み出す。それこそが、今日よりも成長した明日の自分を作るのだと思います。

最後になりますが、これからはこれまで加治木高校を支えてくださった龍門会に加入することになります。私たちにできることは少ないかもしれませんが、これからの世代の加治木高校生を支援できるように尽力していきますので、どうぞよろしくお祈り致します。

〈令和4年総会中止のお知らせ、及び、会費納入、ご寄付のお願い!!〉

安全な総会を開催すべく努力を重ね、更に卒業生のバイオリニスト大迫さんによる生演奏も予定していましたが、本部総会中止の決定に加え、諸般の状況を鑑み、残念ながら今年も中止の決定やむなきに至りました。

去年は多くの方々に会費納入、ご寄付を賜り、心より感謝いたしております。ありがとうございました。今年も心苦しくはございますが会費納入に添えてご寄付を賜ると、会の運営の励みになります。くれぐれもご無理のない範囲でどうぞ宜しくお願い致します。会費及びご寄付をお送りくださった方々にはもれなく、お礼状に添えて、加治木高校同窓会誌“龍門”をお送り致します。

次年度こそは、コロナ後新装関東龍門会総会で、心身共に健やかな皆さまとお会いできる事を心よりお祈りいたします。

関東龍門会会長 塩村 [久永] 朱美 (昭49年卒・高26期)



会長あいさつ



長門会 会長 朱美 塩村 (旧姓久永) (昭49年卒・高26期)

平和を願う

駅に向かうタクシーの窓から外の景色を見て、不意に夫が

「あれ、なくなつとる！」
「えっ、何が？」
見ると、一角が更地になって、何やら看板が立っています。

「ほら、ここに三階建ての煉瓦の建物が建つてて・・・散歩の時、変わった建物だね、て言つてたやろ？」
「・・・そうだったけ・・・」

全く思い出せない私に夫がちよつとびっくりしたような顔をしましたが、あっさりした性格の夫は、それ以上の説明もせず、駅に着いてしまいました。

よくある話なのですが、その時は、わたしの頭からリアルな記憶が溶けてなくなつてしまふような、夫との共通の物語が一つなくなつてしまつたような、えもいわれぬさみしい、虚しい気持ちに襲われました。

そのままぼろろと、だから、太古の昔から人は必死で色んな形で記録を残そうとしたんだよね」とか、とめどなく思いがさまよつていました。

現実の世界では、もつと酷くて悲しい喪失の出来事が起こり続けています。

夫のハンガリー人の友人はどうしているだろう。彼のブタペストの自宅におじやました時、わざわざ歓迎のためにいらしてくださつたご両親は、アウシュビッツの生き残りとは思えない程、背の高い、聡明で英語も堪能なエネルギー溢れた美しい方々でした。彼自身は、ブタペストに自宅はありながら、殆どロシアに住んで、菓の輸入販売をしています。夫が連絡を取ると、今は、ブタペストにいるとか。彼のご両親は、ナチスの残虐さも、

ハンガリー動乱も生き抜いて、今の状況をどう感じてらっしゃるのだろう。

別の友人の尊敬するあの方はどうなさっているのだろう。オックスフォード大の図書館の地下室で

「日本人でしよう？」と、亡くなった父親が日本虜囚だったからと声をかけられて、少し話をした後全く会わず、2年後に寮を追い出されて、途方に暮れて道を歩いていたら、あの時の美しいお姉さんにバッタリ会つて、そのまま、家の一部屋が空いているからと、彼女の家の下宿人になって院を卒業。彼女の名はアウンサンスーチー。後にミャンマー政治中枢の人になるとは、彼もご本人も当時は知らない事でした。

ここ数年、彼はミャンマーのために、スマートフォンで瞬時に送金ができるプロジェクトやら、立ち上げかけていましたが、連絡さえ今はとれないのではないかと？

「民族は頭の中に共通の物語をもつ」とか、誰かが言っていました。実際、それぞれの持つ物語は皆、微妙に違うものでしょう。

それをわかつた上で、同じ郷土で同じ言葉をもつ人々が、時には美しい記憶の上書きを、時には今の裸の自分を見せあえる同窓会はつくづく有り難いものだと思ながら思っています。

会報が届いた時点で世界がどのようになっているかわかりませんが、名著「ファクトフルネス」の作者が亡くなるまで常に冷静で科学的でポジティブだったように、私も情緒で目を曇らせず、世界が、それでも、確実に良い方向に向かっていくと信じ続けたいものです。

それはとても難しい事かもしれませんが

〈略歴〉

塩村 朱美(旧姓久永) 49年卒業・高26期、青山学院女子短期大学国文科卒

子育て後 学士習得

資格 英検一級

趣味 読書 ベリーダンス 羽生結弦

特技 中国語学習

足で鶴を折ること

NEWS ! & 加治木高校 TODAY



「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」
夢のために駆け抜けた

社会人三年間と今後の展望

平成27年卒 (67期) 川口 智史

この文章は、令和4年3月9日に書かれたものです。

私は亡き祖父から頂いたある言葉を大切にしております。「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」米沢藩主上杉鷹山の言葉です。意味はご存知の方も多いかと思うので割愛させていただきます。祖父は他界する前年、私宛にこの言葉を記した手紙をくださいました。

尊敬して頂いた祖父から頂いたこの言葉は、今でも私の心の支えとなつており、私は自身の成したいことのために、辛ば、あらゆる艱難辛苦に耐え、為すというのを心に決めております。



そんな私の将来成したいこととは、「飲食企業を経営する」ことです。私は学生時代に飲食店でアルバイトをしておりました。その際、私は飲食業界の面白さと、飲食店という空間にいる人たちの、楽しそうにしている顔が好きだということに気づきました。それから、「自分もそんな空間を作りたい!」と思うようになり、飲食企業の経営を志すようになりました。

大学卒業後は大手の飲食企業に就職し、有難いことに、一年目から店長を任せられ、二年目には新店舗の立ち上げ、複数店舗の兼任マネージャー等様々なことを経験させていただきました。特に一年目はお客様との距離が近

い店舗でしたので、日々お客様の喜ぶ顔はもちろん、ともに働く仲間のためにも頑張ることができ、充実した日々を過ごしております。

そんな折、突如新型コロナウイルスという世界中を巻き込む厄災に見舞われ、私の日々は一変しました。

コロナ禍で私は飲食業界の本当の大変さを知るようになりました。緊急事態宣言中にオープンした新店舗では、アルバイトはなかなか採用できず、社員は次々とやめていく。慢性的な人手不足が続き休みなどもなく、残業代も出ない。体がきついのもありましたが、一番きつかったのは、お客様からも働く仲間からも笑顔が消えたことです。外食とは本来、食を通じてお客様、そして働く人々をも幸せにすることができるとは、それができず、また今の自分の力ではどうしようもできないと知り、自分の無力さに苛まれ、挫けそうにもなりました。しかしこの時、祖父から頂いた言葉を改めて思い返し、逆にこの状況を打破できるような力をつけ、「食を通じて再び多くの人を幸せにする」というミッションを成そう!と思うようになりました。コロナ禍は体力的にも精神的にも辛いものですが、自分の成すべきことを明確にすることができた貴重な期間でもありました。

現在は飲食企業を離れ、飲食の人材や店舗不動産を扱う会社に勤めておりますが、ここでの経験も活かし、いづれは鹿児島で、お店にいる全ての人が幸せになれる飲食店を作り、それを広げていきたいと考えております。今後も『為せば成る、為さねば成らぬ何事も』をモットーに、私の成したいことのために、駆け続けたいと思います。

結びに、今の私があるのは一重に皆様の支えがあつてこそです。未熟者ですが、今後も精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

〈川口智史さんは、加治木中出身。高校時代は野球部に所属し、二塁手として活躍。鹿児島大学文学部人文学科を卒業し、就職のため上京。現在、ホクトシステム株式会社勤務。趣味は麻雀とサウナ。今後のますますの活躍が期待されます〉

「加治木高校の近況報告」

その1
 鹿児島県公立高校合格発表に思う

去る3月16日に、鹿児島県教育委員会から令和4年度の県内公立高校入学試験合格者が発表されました。

左下の表は、主な普通科設置の公立高校の募集定員と合格者数をまとめたものです。

(注：合格者の入学辞退や二次募集による合格者追加により、実際の入学者数が増減がある場合があります)

全国的な少子化や私立高校に特徴のある学科の設置が進んだ影響で、鹿児島県内の歴史のある県立高校では、入学願書提出時



点で募集定員割れが顕著になって久しいと聞いています。令和4年度の願書提出に当たっても、主な公立普通科設置高校で出願者数が募集定員を上回ったのは鹿児島市内の数校（以下、市内

有力校）の他は、加治木高校だけであったようです。

加治木高校と市内有力校以外の公立普通科高校では、この傾向は今後も続いていくものと考えられます。

少々大袈裟な表現ではありますが、国の人口減少が国力を削ぎ、地域の人口減少がその地域の活力を下げることに当て嵌めれば、毎年の入学者の減少は「学校力」を低下させていくことになるのかもしれない。

入学者数はおおよそ3年後の卒業生数であり、それは同窓会入会者数と同値になります。定員割れが継続することは、「同窓会力」の低下にもつながるとも言えるでしょう。

魅力のあるところに人は集まります。大きな定員割れを起こさない加治木高校は、学区内の中学生にとって、魅力のある高校に相違ありません。これからも、その魅力を保つことを超え、ますます加治木高校の魅力を上げていくために、関東龍門会が力になれることは何でしょうか？

決まった答えはないのですが、母校を巣立つてからの関係にとどまらず、いま母校に学ぶ後輩・将来母校に学ぶであろう子供たちに思いが至る関東龍門会の活動を継続していければ何よりと考える次第です。

母校と連携を取りながら、そのときのニーズに合致し、かつ、無理のない行動を実行できる会の運営を心掛けていきたいという気持ちが高まるにつれて、数値で示すことが難しくなると感じました。

その2

宇都尚美校長先生が赴任されました

3月22日に発表されました鹿児島県教員異動に伴い、本年4月より宇都尚美先生が、

加治木高等学校校長として赴任されました。

加治木高等学校36期（昭和59年卒）の同窓生であります。

また、加治木高等学校にとりまして、初の女性校長誕生となりました。

母校のためにご活躍されることが大いに期待されます。

その3

気になるYouTube動画

母校の懐かしい景色を折々混ぜながら、校歌をしみじみと美しく感動的に歌い上げるYouTube動画。『えっ、こんなに詩情あふれる歌詞だったんだ！』と皆さん改めて思われることでしょう。長引くコロナ禍で何年も帰省出来ない同窓生も多い中、必見です。（編集部）

母校の校歌をアレンジして歌ってみました。青春時代の甘酸っぱく、淡く切ない思い出を抱きながら歌いました。改めて素敵

鹿児島県内 普通科設置の主要公立高校合格状況

鹿児島県教育委員会HPより抜粋
 (令和4年3月16日発表)

高校名	学科	募集定員	合格者数
加治木	普通	320	316
鶴丸	普通	320	320
甲南	普通	320	320
鹿児島中央	普通	320	320
鹿児島玉龍	普通	125	125
錦江湾	普通	160	141
	理数	80	46
武岡台	計	240	187
	普通	240	240
松陽	情報科学	80	80
	計	320	320
国分	普通	240	240
	音楽	40	19
	美術	40	34
指宿	計	320	293
	普通	280	213
加世田	理数	40	39
	計	320	252
川内	普通	120	83
出水	普通	120	98
志布志	普通	320	236
鹿屋	普通	160	118
大島	普通	120	90
	普通	280	221
	普通	280	227



YouTube動画より転載
<https://youtu.be/TPuRcQNKE2Y>

な歌詞とメロディーですね！在校生、同窓生の皆様、是非お聴きください！
 歌唱・編曲：山下カツヒロ
 (平成10年卒・高50期)
 《福岡拠点で活躍中》

コロナ禍にあっても、がんばれ！ 加高生！！ 「同窓会奨学金への寄付のご報告」

新型コロナウイルス感染拡大が、世界中の人の生活環境を制約し始めて早2年超。関東龍門会会員の皆様におかれましても、何かとご苦労の多いことかと推察します。

創立120周年の同窓会記念事業として始まりました海外派遣事業及び国内派遣事業（通称「龍門の櫛」）も、残念ながら、令和2年度、令和3年度はその実行が出来ませんでした。同窓会では、この記念事業に充てるはずであった予算を、新型コロナウイルス感染拡大により経済的な影響を受けた生徒への奨学金を新設し、令和2年度及び令和3年度にわたり、実行してまいります。

関東龍門会では、この奨学金の趣旨に賛同し、会員の皆様からいただきました寄付の中から、令和2年度に引き続き、令和3年度も金20万円を、この奨学金の原資として活用していただくべく、同窓会に寄付させていただきます。このことは、すでに、関東龍門会ホームページに掲載し、ご報告しておりますが、本誌面への掲載により、重ねてご報告させていただきます。会員の皆様のお志が、母校に学ぶ後輩たちの支援になることをうれしく感じ、同時に会員の皆様への感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。

コロナウイルス感染拡大の収束がいつになるのかは、まだ、明確な答えは出ていません。行動の制約が徐々に解かれていき、国内派遣事業（通称「龍門の櫛」）が再開される日が訪れましたら、関東龍門会は出来る限りの協力をしてまいります。

関東龍門会役員一同

「社会学によるSDGsな

社会貢献の模索」

「龍門の櫛」参加を経て

令和2年卒（72期）新屋 理子

《この文章は、令和4年3月9日に書かれたものです。》

私は法政大学に進学し、社会学を学んでいます。社会学は、社会で起きていることすべてが研究の対象で、幅広い事柄を扱っているのが特徴です。法政大学には3つのキャンパスがあり、私が所属している社会学部は多摩キャンパスにあります。多摩キャンパスは自然が多く、静かで落ち着いた環境です。

東京の大学に進学した動機は2つあり、1つ目の動機が小学生の頃から東京に憧れを持っていたことで、2つ目の動機が、高校2年生の時に国内派遣事業の「龍門の櫛」に参加して、最新の情報が集まり、美術館や博物館など多くの学術的な施設がある東京では、大学での学びだけでなく、自分が関心のあることも深く追求できると思ったことです。



■ゼミで使用のテキスト

1年生の時は、基礎ゼミに入ってレポートや論文の書き方など大学での学びに関する基本的な事柄を学び、1年生からは家族社会学を専攻するゼミに入りました。ゼミでは、文献を読んで家事育児や介護、結婚など家族に関する事柄についてゼミ生同士で意見を交換したり、グループごとにテーマを決めてゼミ論文の執筆に取り組みんだりしました。

コロナ禍での学業の苦労は、コミュニケーションがとりづらかったことです。ゼミ論文の執筆中にリモートで打ち合わせをした時、自分以外のメンバーがカメラをオフにしていたため相手の反応がわかりにくく、コミュニケーションをとる時には声の調子や表情など多くの要素を手がかりにしていることや、リモートでのコミュニケーションは対面でのコミュニケーションを完全に代替するものではないということを強く感じました。

コロナ禍で学生生活には様々な制限がありますが、大学の図書館から本を借りて読書を楽しんでいます。高校時代はあまり多くの本を読むことができなかったのですが、とても充実しています。大学の授業の課題に取り組みにあたって、これまであまり手に取らなかったジャンルの本を読んで見聞を深めることができました。

2021年の4月から7月にかけては、SDGs実践知ゼミナールという学内のイベントに参加して、SDGsへの先進的な取り組みを行っている企業や自治体の方から話を聞いたり、大学生ができるSDGsのアク

ションプランを、同じく参加対象となっていた関西大学の学生と考えて発表したりしました。このイベントは6回のプログラムから構成されていて、すべてリモートでの実施でしたが、住んでいる地域に関係なく他大学の学生と交流できるという、リモートならではの良さを感じました。

また、12月には、高校の同級生が所属しているミュージカルサークルの公演を見に行きました。私は、公演を見に行くまでミュージカルを見たことがありませんでしたが、出演者の生き生きとした表情や力強い歌声にとっても感動しました。

将来の夢は、まだ明確になっていませんが、責任感や社会性・協調性があり、自分が持っているスキルを活かして社会に貢献できる大人になりたいです。

〈新屋理子さんは、高72期 栗野中出身。法政大学社会学部社会学科3年。2018年8月（当時、高2）同窓会国内派遣事業「龍門の櫛」に参加。趣味は読書と美術鑑賞。今後のますますの活躍が期待されます〉



■帰省中に（国宝）霧島神宮にて



“あの人”を訪ねて

先日、「バーチャル渋谷仕掛人」としてEテレ（SWITCHインタビュー）にも出演された中馬和彦さんに寄稿して頂きました。

中馬和彦さん（平成4年卒・高44回生）

（略歴）（ちゅうまんかずひこ）
1996年3月、九州大学法学部卒
1996年4月、国際電信電話株式会社（現KDDI株式会社）入社、2018年4月より現職、KDDI株式会社 事業創造本部 副本部長として、KDDIのスタートアップ投資や新規事業を統括するとともに、経済産業省「Startup推薦委員、経団連スタートアップエコシステム改革TF委員、東京大学大学院工学系研究科非常勤講師、バーチャルシミュレーション代表幹事など歴任。

「スタートアップファースト」

皆様、スタートアップという言葉をご存知でしょうか？一般的にベンチャー企業と一緒に語られることも多いのですが、起業して間もない新興企業をベンチャー企業と呼ぶのに対して、スタートアップはその中でも「革新的なアイデアで短期的に成長する企業」のことを指し、具体例を挙げると、GoogleやFacebook、Amazonなどの新興企業がそれに該当します。



このスタートアップが近年注目を浴びるようになっており、岸田総理が提唱する「新しい資本主義」においても、成長戦略の一つとして「イノベーションの担い手であるスタートアップの

徹底支援」が掲げられております。

では、「なぜ今スタートアップなのか？」につきご説明したいと思います。その前に日本経済の現在地を確認したいと思います。IMDによる2021年度の国際競争力ランキングでは日本は31位、ちなみに1990年代の初めは1位でしたので、この30年で急降下していることがわかります。また、世界の時価総額ランキングでは、1989年は上位50社のうち32社が日本企業でしたが、2019年のランキングでは、上位50社にランクインした日本企業はトヨタ自動車1社のみとなっており、まさに失われた30年であることがわかります。

一方で、アメリカはというと、1989年が17社で、2019年が31社なので我が国とは対照的にこの30年で競争力を大きく上げているのですが、問題はその内訳になります。最新のランキングでは、上位50社にランクインした17社のうち、1989年と同一の企業は4社しかおらず、その大半がこの30年の間に誕生したスタートアップ企業なのです。

このことから、失われた30年にかかる問題の本質は、日本企業の国際競争力が低下したということだけでなく、トヨタやSONYに代わる新たなプレイヤーが登場しなかったことであるといわれております。

そこで改めて、「なぜ今スタートアップなのか？」ですが、日本が再び国際競争力を取り戻すためには、既存の大企業が国際競争力を維持、向上するだけでは不十分で、アメリカにおけるGoogleやAmazon、中国におけるアリババや Tencentなどのように、世界で戦えるスタートアップの登場が必須であるから、ということになります。

それでは日本におけるスタートアップの現状をご紹介します。世界におけるスタートアップエコシステム（スタートアップを取り巻く環境）の最新ランキングによると東京が世界15位で、数年前までは圏外だったことを考えるとその環境は整いつつあります。一方で、評価額が10億ド

ル（約1100億円）を超えるいわゆるユニコーン企業数は、1位のアメリカが520社、2位の中国が167社であるのに対し、日本は11社と圧倒的な差を付けられております。また、ユニコーン企業数と相関関係があるとされるスタートアップへの総投資額ですが、1位のアメリカが約14兆円であるのに対し、日本は3000億円弱とアメリカの約2%に満たない状況です。

また、スタートアップのイグジット（創業者が株式を売却し利益を得ることができると一定のゴール）ですが、アメリカでは91%がM&A（大企業などへの売却）であるのに対し、日本におけるM&Aの割合は32%と、イグジットの大半がIPO（証券市場への上場）に偏っていることが日本のスタートアップエコシステム最大の課題といわれております。

大企業によるスタートアップのM&Aですが、一見スタートアップの成長と相反することのように思われますが、スタートアップにおいては大企業の販路やサポート体制などを活用することで事業成長を加速することができ、大企業においては革新的な事業や技術を取り込むことで持続的成長を実現することができると、実はWin-Winの関係にあります。ちなみに、GFAAと呼ばれる現在の世界の時価総額ランキングで上位を独占するアメリカのIT企業は、その成長の大半をM&Aに依存しております。ちなみにGoogleはYouTubeやAndroidを、FacebookはInstagramやOculusをM&Aしたことで急成長を遂げ、M&Aされたそれぞれの事業（スタートアップ）は世界的なサービスに成長したことをみればその効果をイメージいただけるのではないのでしょうか。

このように大企業によるM&Aを増やすことがスタートアップエコシステムの成長に欠かせない要素であるとともに、社会としても大企業に蓄積された資本やノウハウがM&Aを通じてスタートアップに移管されることで、産業全体の新陳代謝が進むという効果もあることから日本が弱いとされる大企業とス

スタートアップの連携は、大きな社会課題といえます。

実は、私はKDDIにおけるスタートアップ投資の責任者をしておりまして、またKDDIという会社は、最も多くのスタートアップに出資し、最も多くのスタートアップをM&Aしている。大企業として知られる存在であることから、今回このようなトピックをご紹介させていただきました。

ここまでお伝えした内容は必ずしもポジティブなものばかりではなかったかもしれませんが、年間数百社のスタートアップと面会し、週一ペースで関連するイベントに登壇する私から見える世界は、新しいアイデアと熱い情熱が溢れかえる素晴らしいものです。そして、そこには日本の未来を担う可能性のあるスタートアップが確実に存在しております。

スタートアップの起業家たちというのは、一握りの特殊な人たちだと感じている方も多しと思われがちですが、彼らの存在がもたらす一般的な成長のために、政府はスタートアップたちの成長を最優先に国の仕組みを再構築し、大企業は保有する豊富なアセットを開放しスタートアップの成長を支援する、そして官僚や大企業に働くより起業することがカッコイイと評価される、そんなスタートアップファーストな社会の実現に向けて、今後もエコシステムに貢献していきたいと考えております。

最後に本寄稿が、一人でも多くの方がスタートアップへの興味と関心が高まるきっかけになれば幸いです。



〈関東龍門会〉(令和3年度) 事業報告

幹事長 海江田健司(昭63年卒)

〈活動報告〉

- ①令和3年度総会は前年に続き新型コロナウイルスの影響により中止となりました。
②議事として会計報告、年度事業計画等を討議しました。
③令和3年度(令和3年4月1日~令和4年3月31日)は、常任幹事会0回、臨時役員会4回(オンライン)、学年幹事会3回、会報編集委員会3回開催し、令和3年度の行事と会報発行を滞りなく遂行しました。さらには令和4年度の総会および「龍門の櫂」の準備業務に向けて会議を行いました。

- ④母校発展のために寄与する同窓会活動の根幹事業として位置付け平成27年度より関東龍門会の単独事業としてスタートしたイベント(8月上旬に関東大学オープンキャンパス参加と並行して、母校の選抜生徒の関東OB企業訪問)企画も、前年に続いてコロナの影響で中止となりましたが、本部同窓会・高校サイトとの連携協議を重ね、今後に邁進いたします。

- ⑤前年に続きまして、本部同窓会が加治木高校在校生に対し実施している「コロナウイルス禍対応特別奨学金」へ、関東龍門会として20万円の寄付を実施しました。
⑥各同好会活動もコロナ禍で開催がままならず今年度後半以降の活動を目指しております。

改めて各同好会の紹介をいたします。
ゴルフ同好会
(幹事) 川井田信雄(高・昭45)
(T E L) 0 4 3 - 2 5 0 - 4 4 7 8
(F A X) 0 4 3 - 2 5 0 - 4 4 7 8

⑦関東龍門会ホームページをリニューアルしスマートフォンからでも見やすくなりました。
http://yunnokai.com/



◆関東龍門会事務局からのお願い

関東龍門会の運営は会員皆様方の会費と寄付で賄われており、それらは主として会報制作費と発送費用に充当されております。
会員サービスを充実するためには皆様の会費納入が絶対不可欠です。何卒、会費納入にご協力をお願い致します。

◆ご寄付への御礼とお願い
毎年、会報および総会の席上で寄付金お申し出を承っております。令和3年度は総会中止にも関わらず、会員個人・団体合わせ136名の方々に賛同頂き、106万1千5百円と、前年度を大幅に上回る篤志を頂きました。
会運営に深いご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。
なお「ご寄付に当りましては、「年会費振込用紙」をご利用頂き、金額欄に会費と寄付金額を合算した額をご記入ください。

◆関東龍門会への入会促進と

総会・懇親会へのご参加お願い

関東龍門会の存在をご存知ない方やこの会報が届かない方

がおられましたら、ご遠慮なく事務局へご連絡ください。

連絡先は

・幹事長 海江田健司
(T E L) 0 9 0 - 4 6 6 2 - 3 6 1 7
・顧問 前原澄雄
(T E L) 0 8 0 - 5 4 3 0 - 7 4 8 8
・副会長 木佐木学
(T E L) 0 9 0 - 2 2 1 8 - 5 3 8 4
・顧問 山下憲男
(株) ヒューマンウェア内、
(T E L) 0 3 - 5 2 8 2 - 7 5 1 1

また、「ご出身地毎の郷土出身者懇親会や、知人・ご親戚の方で同窓生がいらっしゃいましたら是非とも呼びかけていただき、本総会・懇親会のご案内及び総会へお誘い合わせいただき、出来るだけ多数の同窓生の方々にご参加されるよう何卒宜しくお願い致します。
なお、同期生や知人・ご親戚の同窓生で当会未登録の方にも、お声掛けをお願い致します。

※学生は会費・懇親会費全て無料です。気軽に参加ください。お待ちしております。

〈関東龍門会〉令和3年度 役員

(令和4年3月31日現在) ※ () 内は卒年

- 〈会長〉 塩村[久永]朱美(昭49)
〈副会長〉 川井田信雄(昭45) 木佐木学(昭46) 若林[高山]凉子(昭46)
〈幹事長〉 海江田健司(昭63)
〈副幹事長〉 中村信二[監査兼任](昭45) 中園悦朗(昭46) 上加世田策(昭47)
〈監事〉 西迫宏文(昭55) 中野広行[会計担当兼任](昭58) 久保裕(昭61)
〈常任幹事〉 松野下[田村]淳子(昭49) 最勝寺久尚(昭49) 徳永哲二(昭49)
堀之北[前原]かすみ(昭49) 山元真之(昭49) 佐藤[境田]安子(昭51)
淵邊善彦(昭58) 今市憲一郎(昭59) 西原真仁(平03) 川畑翔太郎(平17)

〈学年幹事〉(各期) 各学年・卒業期毎に数名(掲載省略)

※各事業担当責任者

- ☆(ゴルフ同好会) 川井田信雄(昭45) (補佐) 福村正美(昭53)
☆(囲碁同好会) 山元真之(昭49) (補佐) 田原孝志(昭49)
☆(会報編集委員会) 久保裕(昭61) (補佐) 中野広行(昭58)
☆(国内派遣事業) 西迫宏文(昭55) (補佐) 川畑翔太郎(平17)
☆(SNS担当責任者) 海江田健司(昭63) (補佐) 西原真仁(平3)



令和3年度寄付者ご氏名(敬称略)

- (20年) 野元保弾 (21年) 野中隆一郎 (23年) 市来秀夫 (24年) 小城忠行 杉田宏
久保弘 (25年) 森山耕二 高城弘世・順子 小濱嘉郎 (26年) 城正之 酒匂昭男
加治木正紀 徳田誠一郎 古川耕一 高原祥子 (27年) 新村美和子 松屋勝己 伊藤良治
(30年) 岩元博明 立山勲 内田修 (32年) 武田文子 蓑毛長洲 坂元亨 窪田幸男
(33年) 尾崎初代 黒木勇 (34年) 白濱孝一・陽子 古江隆志 小久保紀光 別府睦雄
松元典郎 (35年) 本田勝 松金瑛子 重信龍男 中山憲一郎 鶴田観太郎 鬼塚洋子
(36年) 鶴飼美智子 重森英樹 了徳寺敏憲 高橋ミチ子 白井ミチ子 児玉重人
(37年) 石字テルエ 泉美保子 布留川文子 松林まりこ 藤島義行 下川原寿 米山滋子
米増洋昭 (38年) 増田久宜 (39年) 徳永正幸 福村道幸 柿元邦彦 田口順子
相羽孝師 洪江晃一 河野正美 (40年) 藤崎マリ子 北野正英 堅山達一 垣内忍
(41年) 海田京子 安田文二 三浦佳代子 福重利夫 北原源平 西郷宏 藤井誠
大串久美子 荻原町子 黒川幸治 (42年) 鎌田修 藤井豊幸 國生幸一 太田みどり
大久保君子 (43年) 市来敏和 前原澄雄 大久保令子 松永吉郎 竹田茂隆 七反田篤夫
矢野雅子 重村博文 永元幸雄 金澤久美子 (44年) 岩井隆一 福元俊雄
(45年) 大村登喜子 中村信二 葉山忠 (46年) 木瀬久幸 藤本ユミ子 若林凉子
小松郁子 茶木美代子 (47年) 梅橋嘉博 上原三枝子 (48年) 井下修
(49年) 塩村朱美 田原孝志 堀之北かすみ 中村俊文 山崎純江 福島恵子 山元真之
本間万里子 松野下淳子 岩崎弘幸 最勝寺久尚 (50年) 佐藤三恵子 稲垣芳郎 有村優
(51年) 楠田靖紀 泉晴幸 佐藤安子 (52年) 金子智子 堀内由美子 赤津まゆみ
(53年) 矢野義信 官原絹子 満留友和 (54年) 岩崎三枝子 大岩根正浩
(55年) 西迫宏文 (58年) 淵邊善彦 中野広行 (59年) 今市憲一郎
(61年) 福田健 久保裕 (63年) 海江田健司 (H3年) 西原真仁
〈加治木高校同窓会本部〉 (卒年)

〈令和2年度 会計報告〉

(会計幹事) 中野広行(昭和39年卒)

関東龍門会 令和2年度(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

Table with columns: 収入の部(単位:円), 支出の部(単位:円), 科目, 決算, 予算, 決算. Rows include items like 年会費収入, 総会費収入, 印刷関係費, etc.

(注) 当会報による報告は、決算月日の関係上、令和2年度の会計報告です。令和3年度の会計報告は、令和4年度の承認手続きを経て、当会報令和5年号において報告します。

〈備考〉

- (※1) 令和2年度総会は新型コロナウイルス禍により、残念ながら2年続けての中止となりました。
(※2) 令和2年度年会費納入者は246名。
(※3) 令和2年度寄付者127名(寄附者ご氏名は当会報令和2年度号に掲載済)。
(※4) 印刷関係費は、会報、案内状、送付用封筒等の印刷費用です。
(※5) ホームページ作成初期費用・維持費は、リニューアルしたことによるものです。
(※6) 周年記念事業費積立金は、母校の周年記念事業の協賛を目的として積立管理しております。
(※7) 本部同窓会が、在校生の支援として実施している「コロナウイルス禍対応特別奨学金」に寄付を行いました。

編集責任者 久保裕 (昭和61年卒・38期)

今号は左記の方が編集作業に携わりました。
西迫宏文
中野広行
海江田健司
西原真仁

◆【編集後記】
今号も昨年の総会中止で、皆様の近況を掲載していただき「一同屈生でありました」をお聞きできました。紙面も縮小しましたが、お話しありがとうございました。
◆しかし、快く寄稿して頂きました皆様のおかげをもちまして、無事会報誌をお届けすることができました。感謝いたします。
◆直接お会いすることもままならない大変な世の中ではありますが、また会員の皆様にお会いできる日を楽しみにしております。